

# WCS用稲の普及推進による自給率向上

畜産技術センター普及指導課

実施期間：令和4～8年

## 課題・目的

- 円安等の影響により、輸入乾牧草の価格高騰が酪農経営を圧迫している。
- 令和5年度において、県内4戸の酪農家がWCS用稲を約2ha作付けしたので、栽培等の技術支援や収量調査等を実施し、飼料価値を算定する。

## 活動内容

- 品種は「つきすずか」で、幼苗は6月上旬～下旬に移植、「出穂後40日以上経過」した9月下旬～10月下旬が収穫の目安であったが、天候の関係で40日未満での早刈りも散見された。
- 茎葉とモミを合わせた乾物収量は、県内平均で1.67t/10aとなり、カタログ値の1.73t/10aとほぼ同様であり、デントコーンと同程度となった。
- 乾物率は、収穫後に稲を予備乾燥させ過ぎたため平均69.9%と高く、pHは平均5.6、有機酸含有量は平均0.64%となり、発酵不足が懸念された。また、TDN、粗脂肪、NFEが全国と比較して低い数値を示した(下表参照)。
- 栽培概要、収量調査、成分分析をまとめ、取組んだ4戸の酪農家で情報共有を図るとともに、県内酪農家へ情報提供を行った。
- WCS稲に取組んだ4戸すべてにおいて、乳牛の嗜好性は良好であった。
- 収穫物の飼料価値を輸入スーダンで置換すると10万円強/10aとなった。

表 県内酪農家4戸が生産したWCSの成分分析値(令和5年度)

	乾物率	TDN	DCP	粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分
県内平均	69.9	45.9	2.7	5.0	1.1	27.2	18.5
全国平均	39.0	54.0	3.1	5.8	2.4	26.0	14.6

※全国平均は日本標準飼料成分表による

単位は、%



オフセットシュレッダーでの刈取り



ロールベアラーでの収穫

## 今後の展開

- 令和6年度は、5戸の酪農家がWCS用稲を約4ha作付けすることとなり、引き続き、栽培等の技術支援や収量調査等を実施する。
- 栽培省力化を図るため、湛水直播栽培の導入支援を実施するとともに、幼苗移植栽培との比較による省力効果測定を実施し、普及推進を図る。